

# 「平成29年度 本明川流域減災対策協議会」 開催

平成27年9月の関東・東北豪雨を踏まえ、市、河川管理者、県等が連携・協力し、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的な推進により社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的として、平成28年5月に「本明川流域減災対策協議会」を設置しました。

昨年は、概ね5年間の減災のための目標や具体的な取組内容を定めた「本明川の減災に係る取組方針」を策定し、今年度は取組内容の進捗状況を確認しました。

## 1. 概要

- ・日 時 : 平成29年6月2日
- ・会 場 : 諫早市役所

## 2. 議事内容

「本明川の減災に係る取組方針」の進捗状況

### ■5年間で達成すべき目標

諫早大水害の教訓を生かし、これを超える大規模水害に対し、「**地域防災力の強化による災害に強いまちづくり**」を目指す

#### 1) ハード対策の主な取組

- 洪水を河川内で安全に流す対策
- 本明川ダムの整備
- 危機管理型ハード対策
- 避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤整備

#### 2) ソフト対策の主な取組

①諫早大水害を語り継ぎ、住民が自ら避難行動を起こせる災害危険箇所の共有、防災教育・訓練・水防体制の強化⇒『住民の防災意識の向上』

- 平時における住民等への周知・教育・訓練に関する取組
- 関係機関と協力、連携した防災学習、防災教育による普及啓発活動の拡充
- 想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域等に基づいたハザードマップ作成
- 自治会等による避難計画等の検討、まるごとまちごとハザードマップ作成
- ハザードマップを基に、説明会や出前講座を通じて企業、自治会、住民等、幅広い年齢層に浸水リスクを周知
- あらゆる世代に対して諫早大水害を語り継ぎことを継続するとともに、諫早市民を中心に防災への新たな決意を創出させるよう水害から60年の節目に防災・減災フォーラムを開催

■水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組

- 水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施
- 効率的な水防活動を支援するため、リアルタイム情報の共有検討及び推進
- 要配慮者利用施設や企業等の自衛水防の推進に関する取組
- 要配慮者利用施設への情報伝達や避難訓練の計画検討及び支援活動
- 帰宅困難者や観光客等に対する鉄道事業者や学校、企業、観光協会等と連携した情報提供及び一時的な避難や支援体制等の検討

②諫早大水害の教訓を生かし、地域防災力の強化を図るための的確な防災情報の提供や避難判断が行える仕組みを構築⇒『**確実な情報提供・避難の実現**』

■情報伝達、避難計画等に関する取組

- 切迫性が伝わる情報内容、提供方法の検討、必要な見直しの実施と市民への周知
- 水害時の防災活動の役割、避難行動を明確化したタイムラインの策定
- 各機関が連携した実践的な本明川総合水防演習の実施
- 情報発信の内容を理解してもらうため、わかりやすい防災情報の提供改善・充実
- 雨量等を基にした避難勧告等の発令基準の検討
- 防災行政無線や光と音で川の安全度を住民に知らせる「川の警告灯・安心スピーカー」等の改善、充実
- 水害時に的確な対応を行うため、防災拠点施設における機能の維持や持続するための水害BCPの検討、策定
- 関係機関がリアルタイムで河川情報を把握するため、国、県、市が所有する河川カメラ映像の情報共有化

③大水害が起こりうることを前提に、被害軽減と早期復興を目指すための取組⇒『**社会経済被害の最小化**』

■排水活動及び施設運用の強化に関する取組

- 氾濫水を迅速に処理するための排水施設等の効果的な運用方法の検討
- 施設管理者と操作人との連絡体制の確認と伝達訓練の実施
- 排水施設、樋門、樋管等における自動化、無動力化の検討及び推進

## 3. 主な意見等

- ・気象に関しては、「警報級の可能性」や危険度を時系列に色分けした表形式での情報を提供開始している。また、浸水や洪水の危険度をわかりやすいメッシュ等で表示する情報の提供を予定している。
- ・今年度、半造川指定区間についても想定最大外力を対象とした洪水浸水想定区域図の作成を予定している。
- ・ハザードマップの作成では、避難ルートを把握する他、水平・垂直避難を踏まえ、避難訓練と併せて取組むことが重要である。
- ・避難は、地震や台風、水害などの災害により変わるものであり、地域に密着する自治会単位での情報が重要である。諫早市では、防災マップを自治会ごとに作成しており、今後も引き続き支援していく。
- ・諫早市は特に急傾斜地、土砂災害の警戒区域が非常に多く、新たに指定された場合には避難ルートの見直しを適切に行う必要がある。
- ・今年度で諫早大水害から60周年を迎え、諫早大水害を語り継ぐためにも河川の特性や洪水時の避難等、地域の方々が考える様々な取組みを実施していく。



会場全景